

- 問1 縄文時代の人々が、食物の豊作や子孫の繁栄、あるいは病気や怪我の治療などを願うための信仰として用いた、女性をかたどった土製の像を何と呼びますか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 銅鐸 2. 石包丁 3. 土偶 4. 埴輪
- 問2 縄文時代から弥生時代にかけての住居の構造について、地面を掘りくぼめる方法が取られた主な理由として、当時の生活環境から考えられる説明として最も適切なものはどれか。 (2017年 茨城県公立入試 類似)
1. 床を地面から高く離すことで、収穫した穀物の湿気を防ぐため 2. 仏教の影響を受け、寺院の建築様式にならって地面に直接柱を立てないようにするため 3. 床を地面より低くすることで、室内の温度を一定に保ちやすくするため 4. 大規模な灌漑施設を作る際、土を掘り出す作業と同時に建築するため
- 問3 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため 2. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため 3. 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため 4. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため
- 問4 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。 2. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。 3. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。 4. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。
- 問5 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。 2. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。 3. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。 4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。
- 問6 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)
1. アイヌ民族 2. 琉球民族 3. 蝦夷（えみし） 4. 渡来人
- 問7 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 大和民族 2. アイヌ民族 3. 琉球民族 4. 渡来人
- 問8 2019年に制定された「アイヌ施策推進法」では、アイヌの人々の誇りが尊重される社会の実現を目指しています。アイヌ民族が日本の先住民族であることを認め、その独自の伝統や文化を維持・振興することで実現しようとしている、多様な背景を持つ人々が共に暮らし社会のあり方を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)
1. 中央集権社会 2. 持続可能な社会 3. 多文化共生社会 4. 高度情報化社会
- 問9 縄文時代の人々が、遮光器土偶に見られるような独特な形をした土製品を多く製作した理由として、当時の社会背景から考えられる背景はどれですか。 (2026年 千葉県公立入試 類似)
1. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出するための芸術性を追求したため。 2. 金属器がまだ普及しておらず、全ての調理器具や狩猟道具を土で作る必要があったため。 3. 強力な王が国を統一し、自分の権力を誇示するために同じ形の像を大量生産させたため。 4. 自然の脅威や病気に対して、超自然的な力による解決や生命力の向上を祈る必要があったため。
- 問10 ある中学生が地元の歴史博物館で調べた内容をまとめた報告書の中で、「市内で発掘された、表面に縄を転がしたような模様がある土器」について記述しています。一万数千年前から紀元前数世紀まで続き、このような土器を使って狩猟・採集・漁労を主とする生活が行われていた時代を何といいますか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. 縄文時代 2. 古墳時代 3. 弥生時代 4. 旧石器時代
- 問11 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。 2. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。 3. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。 4. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を甕うために作られた。
- 問12 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
1. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまうことを前提とした観賞用。 2. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。 3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。 4. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。
- 問13 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)
1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代 2. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代 3. 登呂遺跡 — 弥生時代 4. 三内丸山遺跡 — 弥生時代